

サークル活動完了報告書

サークル名	楽々安全移乗隊2	発表者	井ノ本 千沙、高橋 直之
		リーダー	井ノ本 千沙
部署	リハビリテーション科	サブリーダー	高橋 直之
活動期間	開始:平成 23 年 6 月 7 日 終了:平成 23 年 12 月 21 日	メンバー	渡辺 昌寿、吉川 陽樹、坂井 香津恵、崎元 直樹、榎原 伸一、井ノ本 千沙、湯浅 美聖、中井 圭子、村山 留美、森本 淳悟
会合状況	会合回数 9 回 1回あたりの会合時間 20 分		
所属長/推進メンバー	渡辺 昌寿	所見欄	
レビュー担当者	(株)麻生 向野 早苗		

テーマ

楽々安全移乗隊2

テーマ選定理由

昨年度 4 階西病棟と 3 階西病棟を対象に移乗動作介助に対する研修会を実施したが、その後も看護師からの移乗動作介助に対する質問を頂く事が多くあり継続して看護師を対象に研修会をしていき安全な移乗の獲得・普及を目指していく必要性を感じたため。また、今回は前回研修会を行っていない病棟を対象に研修会を行うことにした。

現状把握

現状把握として4階東病棟看護師にアンケートを依頼。内容としては①移乗動作介助の頻度、②移乗動作介助に対しての不安感の有無、③移乗動作介助に不安を感じている理由(フリーコメントにて)、④移乗動作介助の研修会を受けたいかどうか、⑤研修会での希望する内容についてアンケートを実施した。

[アンケート結果]

回収数:

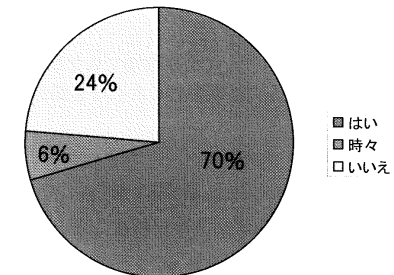
4 階東病棟の看護師 17 名から回答を得た(男性 2 名、女性 15 名)

① 移乗動作介助の頻度

よく行方-5 名 時々行方-12 名 あまり行方ない-0 名 全く行方ない-0 名

② 移乗動作介助に対しての不安感の有無

はい-12 名 時々-1 名 いいえ-4 名



③ 移乗動作介助に不安を感じている点(フリーコメント)

- ・Pトイレなどベット周りの環境設定-3名
- ・移乗動作時の点滴やドレーンなどのルート管理-2名
- ・トランスファーボードなど道具の使用-2名
- ・下肢脱力のある患者さんや筋力低下のある患者さんの移動時に転倒しないか不安を感じる。
- ・力任せになっていて患者さんにも自分にも負担になっている気がする。
- ・自分が小さいとき、大きな体格の患者さんを移乗するとき、重みを感じるとき。
- ・安全にできているかが不安。

④ 移乗動作介助の研修会を受けたいかどうか

はい-17名 いいえ-0名

⑤ 研修会で希望する内容

- ・体が大きい人のトランスファー
- ・ベット上で行えるリハビリ
- ・痛みがある人の離床
- ・移乗時の注意点
- ・安全に行う方法を具体的に
- ・いかに患者に負担が少なく安全に移乗できるか
- ・ポイントや注意点
- ・整形術後の移乗動作時の注意点
- ・実技のある研修
- ・力の入れ方、体や手の支え方
- ・麻痺や骨転位のある患者さんのボード等の使用方法
- ・患者の邪魔にならず、いざというときに介助できる立ち位置や介助方法

アンケートの結果:

設問①-看護師全員が「よく行う」と「時々行う」のみであり、業務上移乗動作介助は頻回に行っている病棟であった。

設問②-75%以上看護師さんが「はい」と「時々」と答えており移乗動作に不安を感じながら移乗動作を行っていることが考えられた。また、「はい」と答えた看護師は70%以上に達しており不安感は大いものであることも考えられた。

設問③-移乗動作での具体的な不安点は多くの要素が聞かれた。

設問④-研修会に関しては病棟看護師からの希望が大きい結果だった。

設問⑤-研修会での希望については、移乗動作の介助方法についての希望が多く聞かれた。また、具体的な患者層についての提案が聞かれた。

【総括】

4 階東病棟の看護師の多くは、業務上行う患者さんの移乗動作に不安を感じており、不安を感じる要素についても多様化していた。また、移乗動作介助についての研修会に対する要望が聞かれ、研修会の内容としては移乗動作の介助方法や具体的な患者さんの移乗動作のポイントを知りたいとの希望が聞かれた。

目標設定

4 階東病棟の看護師さんの移乗動作介助での不安感を少しでも軽減する。アンケートで移乗動作への不安感についての質問に対して「はい」と答える看護師さんを半分程度に減少する。

要因解析

現状把握で行ったアンケートの結果から看護師の移乗動作介助に対する不安感の要因を考察した。

① 移乗動作の方法や安全性など

実際に移乗動作の介助を日常的に行っているが安全にかつ患者さんの負担につながっていないかどうか。また、転倒させないように移乗動作を行う方法に自信が無いことが移乗動作における不安要素につながっていることが考えられた。

② 患者さんの状態による要因

体格が大きい、下肢の筋力が低下している、疼痛が強い患者さんなど患者さんの状態が移乗動作介助の不安につながっている一つの要因として考えられた。

③ 移乗動作時介助の際の道具の使用法や環境設定

移乗動作の介助を行う際に、安全に移乗動作を行う事が可能な環境設定が出来ているか、また、トランスファーボードなどで移乗動作介助の際に使用する道具や車椅子の選定などが把握していないことが不安につながっている可能と考えられた。

対策立案

研修会を実施→昨年のCS活動で行って好評だった点については今回の研修の中にも取り組んで行くことにした。

① 女性スタッフ中心に研修会を進めていくことで女性が多い看護に配慮していく。

② 実技中心でなるべくマンツーマンで研修会を行う。

③ 具体的な患者を設定して研修会を行うことにした。

また、今回はアンケートの中で聞かれた新たな要素を盛り込んだ研修会の内容を盛り込んだ研修会にした。

① 実際に看護師にも患者役になってもらい、悪い例や患者に負担がかかると思われる移乗動作の介助方法を体験してもらうことにした。

② トランスファーボードの使用法や車椅子の置く場所など環境設定についても盛り込んでいくことにした。

③ 実際の患者さん(下肢筋力の低下した患者さん、体格の大きい患者さん、癌性疼痛の有る患者さん)の移乗動作介助の様子をビデオに画像を撮り、提示しながら研修会を行った。

対策実施

・研修会実施

現状把握のアンケートの解析後、科内にて話し合いをして研修会の内容の打ち合わせを実施。その後病棟師長に研修会の日程調整を依頼して日程を決定した。

研修会は10/10、10/17、11/14にPT室にて研修会を実施。実施時間は日勤業務終了時間に設定して18:00から実施した(業務の関係もあり研修会参加人数があまりにも集まらない時もあり、その時はある程度人数が有るまで待つから研修会を実施した時もあった)。

研修会参加者は全3回の実施で13名の参加をいただいた。

各回数参加人数は4~6名程度で少人数での研修会を実施。研修会の時間は1回約1時間~1時間半程度だった。

・研修会の内容

① 口述での講義内容

I 移乗動作の介助量判断のためのスクリーニング

II スライディングボードなどの移乗動作介助における補助具の使用の判断

② 実技講習

III-1 移乗動作介助の際に道具を使用しない場合のポイント

III-2 移乗動作介助方法とポイント(移乗動作全介助の患者さんの場合)

→最初にビデオ撮影した症例を提示。セラピストが実技を行いながらポイントの説明を行う。その後、セラピストと看護師とでグループを作って小グループに分かれて患者役と介助者役を交互に実技を行った。看護師には、通常の移乗動作介助方法のポイントの説明や実技と患者に負担がかかったり転倒しそうになる介助方法を体験してもらう形で実技を進めていった。また、実技講習中に出てきた質問にはセラピストが適宜対応していった。

効果確認

【研修会の効果】

研修会終了後に参加者にアンケートを実施。参加者 13 名全員から回答を得た。

① 回答数

女性	男性
13	0

② 今回の研修の内容はどうでしたか？

よくわかった	あまりわからなかった	少し難しかった	難しかった
13	0	0	0

③ 研修会の内容は役に立ちますか？

はい	いいえ
13	0

④ 今回の研修の内容以外でも少し聞いてみたい、研修をしてほしい内容がありましたか？

はい	いいえ
6	7

(フリーコメント)

- ・ 体位変換
 - ・ 体位変換・移乗動作の際に使う道具の使用方法(2人)
 - ・ 数ヶ月に1回定期的に研修会をしてほしい
- ⑤ 質問や研修会に対しての要望などがありました。自由に記載をお願いします。
- ・ たのしかった(3人)
 - ・ 今後リハの方と情報交換ができればいいと思います。あまり接触がないような気がします。今回はわかりやすくありがとうございました。
 - ・ 自分の動き方がわかった。コツがわかった。
 - ・ 患者の立場になってどれだけしんどいかわかった。(2人)
 - ・ 少人数で研修会を行ったので実施しやすかった。
 - ・ 病棟でも実践してみます。

今回の研修会では4階東病棟の看護師全体の約50%の参加を得ることができた。研修会の内容としては全員が「わかりやすい」との回答をしていた。また、臨床においても役に立つ内容でもあり、定期的に行ってほしい希望や患者の立場も体験できてよかったなどのフリーコメントをいただいたことから内容としては十分に効果のある研修会になったのではないかと考えられた。一方、時間的な制約もあり内容が限られており、体位変換など今回の研修会以外の内容についても希望が聞かれたので今後の課題にしたいと思った。

【最終効果確認】

最終的な効果確認として研修会実施後、2ヶ月が経過した時点(12月中旬)にアンケートを再度実施。アンケートは現状把握の際に使用したアンケート内容に加えて、研修会参加の有無の質問項目を加えた物を使用した。アンケート回収は12月21日に行い結果集計を行った。

【最終アンケート結果】

回収数:

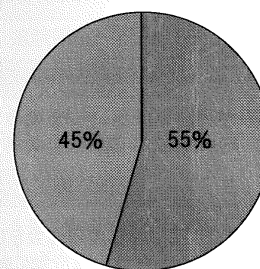
4階東病棟の看護師20名から回答を得た(男性2名、女性18名)。研修会に参加された看護師は11名、研修会に参加していない看護師は9名だった。

① 移乗動作介助の頻度

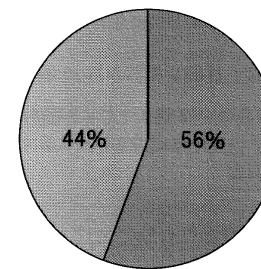
よく行うー13名 時々行うー7名 あまり行わないー0名 全く行わないー0名

研修会参加

研修会不参加



■ よく行う
■ 時々行う
□ あまり行わない
□ 全く行わない



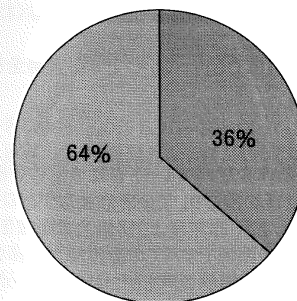
■ よく行う
■ 時々行う
□ あまり行わない
□ 全く行わない

② 移乗動作介助に対するの不安感の有無

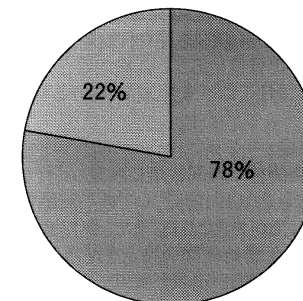
はいー11名 時々ー9名 いいえー0名

研修会参加

研修会不参加



■ はい
■ 時々
□ いいえ



■ はい
■ 時々
□ いいえ

研修会に参加した看護師の中で「はい」と答えた看護師の割合は 70%→36%に減少。ほぼ半数程度減少し、今年度の数値目標を達成できた。

- ③ 移乗動作介助に不安を感じている点(フリーコメント)
- ・ P-トイレなどベットの環境設定-3名
 - ・ 移乗動作介助時の点滴などのルート管理-4名
 - ・ トランスファーボードなどの道具の使用方法-3名
 - ・ 体格の大きい患者さんの移乗動作
 - ・ 協力の得られにくい患者さんの移乗動作介助
- ④ 研修会に参加できなかった理由は何ですか？
- ・ 勤務の関係で参加できなかった。日程が合わなかった-7名
 - ・ 勤務中で時間がとれなかった-2名

標準化

研修会について

可能な限り今後他の病棟でも行っていく。内容については病棟ごとで患者の状態も異なってくるので病棟の特色に合わせて具体的な患者例などを提示した研修会の内容にしていく。

日常業務内では

病棟などで看護師から質問や相談があった場合は適宜リハビリテーション科のスタッフができる限り対応していくように配慮していく。

まとめと今後の課題

(まとめ)

昨年度に引き続き移乗動作介助について CS 活動を行った。今年度の活動においては昨年度研修会をできていない4階東病棟を対象とした。まず現状把握を実施。4階東病棟の多くの看護師が移乗動作介助に対して不安を持っていることや移乗動作介助に不安を感じている要因が様々あることを把握した。加えて自分の移乗動作介助方法に対する不安感も新たな要因として聞かれた。以上の内容を踏まえ今回も看護師対象に研修会を実施した。

昨年度の反省として看護師の参加が少なかったこともあり病棟との日程調整を早めに行い看護師の参加をはかってもらうように病棟に配慮をお願いするとともに看護師がなるべく集まるように研修会の時間設定や開始時間を遅らせるなどの配慮を行った。

今回の活動の効果としては、参加した看護師の不安感軽減に設定した数値目標を達成することができた。また、患者の立場に立った移乗動作介助の内容を研修会に今回は加えて行ったが患者さんの立場がよくわかったといったアンケート結果も聞かれ効果はあったと思われた。

今後は病棟の特色に応じた研修内容を立案し、さらに研修会を他の病棟でも行っていくことで看護師全体の移乗動作に対しての不安軽減につながる可能性が示唆された。

(今後の課題)

研修会の時間を1時間程度に設定して行ったが、環境設定や移乗動作介助時のルート管理今回の研修会でフォローできていない内容についての不安感が残っているため今後はこれらの点についての研修会なりフォローが必要であることが考えられた。また、研修会の日程調整を早めに相談したり、昨年度より研修会の回数を多くしたり、研修会開始時間の設定を配慮したが、勤務日程や日常業務の関係ですべての看護師が研修会に参加することが難しい現状があった。研修会に参加したくてもできなかった看護師の声も聞かれたのでさらに回数を増やすことも考慮していく必要があると思われた。一方で、病棟に移乗動作についての資料やわかりやすいパンフレットなどを配置して、研修会に参加できない看護師にたいするフォロー体制も必要ではないかを考えられた。